



重要無形文化財保持者  
三宅 右近

# 三宅 狂言 狂言鑑賞会

一、狂言解説「瓜盗人」  
うりぬすびと

二、狂言「梟山伏」  
ふくろやまぶし

三、狂言ワークショップ

四、狂言「舟渡聲」  
ふなわたしこ



## 令和6年 1月20日(土)

開場／午後1時 開演／午後2時

※公演は休憩をはさみ約2時間です

会場／多賀市民会館 ホール

茨城県日立市千石町2-4-20

全席自由

### 2,800円

チケット販売

令和5年11月6日(月)開始

※未就学児のご入場はご遠慮願います。  
※この公演は(公財)げんでんふれあい茨城財団の支援により低料金で実施しております。  
※上記演目写真内容と当日の出演者は異なる場合があります。

プレイガイド

日立シビックセンターチケットカウンター	TEL 0294-24-7720 午前9時～午後6時 休館日除く
多賀市民会館	TEL 0294-34-1727 午前9時～午後5時30分 休館日除く
日立市民会館	TEL 0294-22-6481 午前9時～午後5時30分 休館日除く
ザ・ヒロサワ・シティ会館(茨城県立県民文化センター)	TEL 029-241-1166 午前9時～午後5時 ※窓口営業は10時～5時
茨城新聞社営業局事業部	TEL 029-239-3005 午前10時～午後4時 土・日・祝日を除く

【お問い合わせ】茨城新聞社営業局事業部

TEL029-239-3005

[土・日・祝日を除く 午前10時～午後4時]

主催／(株)茨城新聞社・(公財)げんでんふれあい茨城財団

後援／茨城県、茨城県教育委員会、日立市、日立市教育委員会、(公財)いばらき文化振興財団、  
(公財)日立市民科学文化財団、茨城県能楽連盟、(公財)茨城新聞文化福祉事業団、茨城新聞茨城会

### みんなで体験! 狂言ワークショップ

まずはお辞儀から、そして狂言の基本「構え(姿勢)」「所作(動き)」「発音」を狂言師の分かりやすい指導の下、参加者みんなで元気よく体験しましょう。参加希望者はチケット申込時にお申し出ください。定員を超えた場合は締め切らせていただきます。

時間／午前11時から12時

場所／小ホール

参加無料  
定員30名

狂言鑑賞会チケットご購入の方対象  
参加希望者はチケット購入時にお申し込みください

### ●会場アクセス



※駐車場に限りがございますので公共交通機関をご利用ください。  
お車でお越しの場合、駐車料金はお客様負担となります。ご了承ください。

# 三宅狂言会 狂言鑑賞会

## 《演目・あらすじ》

### 一、狂言解説

はじめに狂言を鑑賞される方にも分かりやすく、狂言の特徴や能舞台について解説をいたします。

### 三、狂言ワークショップ

お客様数名の方に、ステージ上で狂言の所作や発声を体験していただきます。

## （休憩）

### 「瓜盗人」

うりぬすびと  
畑主が瓜畑に案山子をつくった夜、男が瓜を盗みにやってきました。暗いため、転がって瓜を取っていると、案山子に行き当たり、人だと勘違いした男は、許しを請うて謝ります。しかし、返事がないため、よく見ると案山子であることに気が付きます。腹を立てた男は、案山子を壊し、畑をめっちゃに帰ります。翌日それを見た畑主は、今度は自分が案山子を装って待ちます。そこへやってきた男は、案山子相手に祭礼でする鬼の責めの稽古を始めます。畑主は、そんな男に杖を打ち、追い込んでいくと…。

### 四、「舟渡聲」

ふなわだしむこ  
罎入りするためある男が、酒を持って舟に乗ります。酒好きの船頭が一杯だけでも飲ませてほしいと所望しますが、男は大事な罎入りの土産だと断ります。怒った船頭は舟を揺らすなど、嫌がらせをして強引に酒をねだりほとんど飲んでしまいます。どうか対岸に着いた男は、残り少ない酒を持って先方の家へ到着します。快く迎えた姑が、舅を呼びに行くと…。

### 二、「梟山伏」

ふくろやまぶし  
ある兄弟の弟、太郎が山から帰ってきて以来どうも様子がおかしいので、兄は日ごろ懇意にしている山伏に治療を頼みます。さっそく山伏が祈祷を始めると突然、太郎は奇声を発します。事情を聴くと、太郎は山の梟の巣に悪戯をしたと、山伏は梟の霊がとり憑いたと判断し、一心不乱に祈りを続けますが…。

## Profile

### 三宅狂言会 みやけきょうげんかい

三宅右近（重要無形文化財保持者）を中心とした和泉流狂言会。三宅家の芸の神髄を見事に習得し、「釣狐」「花子」と大曲を披いた三宅右近の長男・右矩、次男・近成の次世代を担う若手も台頭。また実力派の高澤祐介（重要無形文化財保持者）、近年新たに重要無形文化財保持者に認定された前田晃一など、芸の奥深さと層の厚さを誇る。国内の公演はもとより海外での公演も多く、その活動は多岐にわたる。そして「狂言をより多くの人達に知ってもらいたい」と、1985年から全国で学校公演を展開、現在では年間100公演もの実績を誇る。工夫を凝らした解説や独自の演出が特長。

### 三宅右近 みやけうこん

#### 重要無形文化財保持者

1941年九世三宅藤九郎（人間国宝）の次男として生まれる。その後父に師事、6才で初舞台、22才で「釣狐」を披く。23才で狂言最高秘曲「花子」を披く。1982年、重要無形文化財総合指定保持者を認定される。磨き抜かれた端正な演技に独自の華麗さを乗せて、卓越した舞台の味わいと深みを作り上げる和泉流狂言師。伝統を重んじながらも、枠に囚われない自由な発想で狂言の新境地を開拓し続ける。日本ろう者劇団による手話狂言の指導、演出は特筆に値する。

## ふれあいとゆとりある地域づくりに貢献します

### ＜事業内容＞

- ◎地域文化、科学技術の振興
- ◎芸術鑑賞等ゆとりの創造
- ◎青少年等人材育成活動
- ◎文化イベント等ふれあいの創造

### (公財)げんでんふれあい茨城財団

日本原子力発電(株)東海事業本部

茨城事務所内(水戸市笠原町978-25) TEL.029-287-1251